

目次

前置き

- ・福祉用具ってなんだろう
- ・着火用具進化過程に観られる用具選定の考え方
- ・なぜ様々な種類が存在するのか

本

介護保険レンタル対象品目から観る福祉用具

- ・介護用ベッドについて
- ・介護用ベッドの付属品について
- ・床ずれ予防用
- ・車椅子について
- ・車椅子付属品について
- ・歩行器について
- ・歩行器の段階的使用について
- ・スロープについて
- ・リフトについて

介護保険購入対象品目から観る福祉用具

- ・ポータブルトイレについて

・入浴補助用具って

入浴いす

入浴台

浴槽用手すり

浴槽内いす

の（専用、浴槽内用）

入浴用ベル

その他（介護保険購入品目非対象入浴用具

・滑り止マット

・洗面器関

・自助具系

SAMPLE

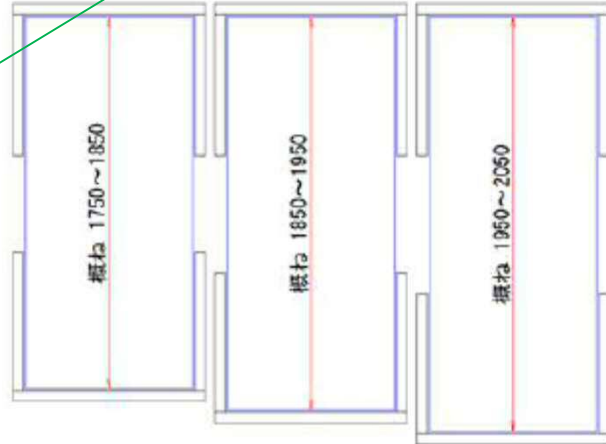
長さの選択も非常に重要なのですが、「部屋が狭いから」という理由でショートサイズを選択していることはよく見てきました。身体状況にあわせるために「ショートサイズ」という本来の選定主旨に基づいて選んでいるという場面をあまり見ることがありません。

製造者は、ベッドを使用する人の身長を考えて、下記のようなサイズの商品として持っていますので、「部屋の大きさが理由」とは言っていないので、身長に適合させなければならぬという人が多く、問題なのではないでしょうか。

人体の座位の際の本来ある自然な背の曲り位置が、背の低い人が適合していき、長いベッドを使用することで、骨盤と背骨の位置がずれることになり、過剰な腹圧がかかってしまったり、機能が低下、栄養取得不十分による衰弱や風邪症状からの復活力低下という問題が生じやすくなるのです。

レギュラーサイズのベッドに、例えば150cmの身長の方が寝ると、下の図のようになります。好んで頭側に寄る人はいないので、中心あたり、あるいは枕などが頭側にあるため、どちらかと言うと脚側に寄る人がおおいです。

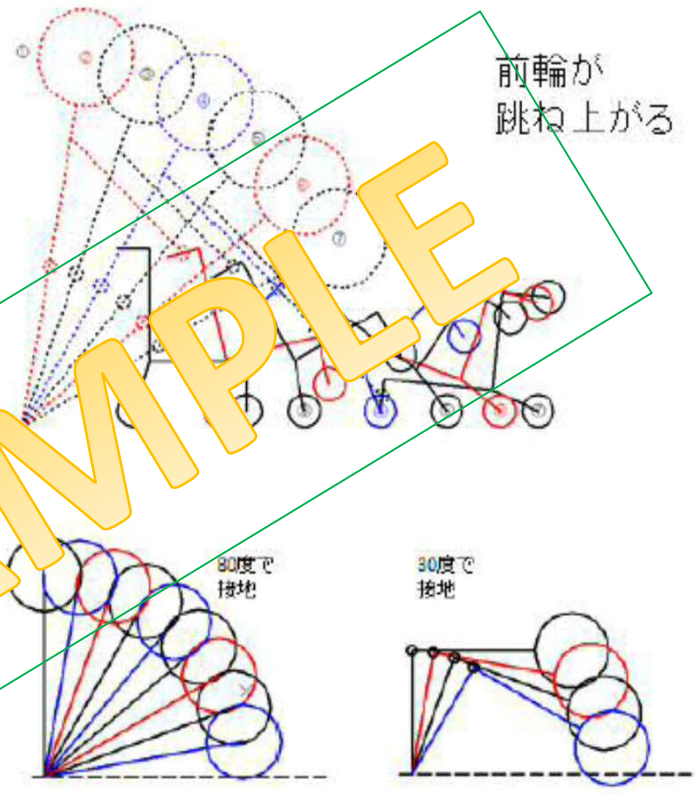
下の図は、ベッドの中心に寝た状態でギヤッジアップした際に、人体の屈曲位置が腹部あたりになることを図示しています。



幅や長さの種類だけではなく、一般の家具としてのベッドと、介護用ベッドにはそもそも大きな違いがあります。

結果として、荷物が入っていない状態では前輪が浮き易く、自分の足元に顔面から落ちるといった「転落」事故が起きやすい状態になっています。

前輪が跳ね上がる



同じ倒れ方でも、地面に激突するまでの時間が異なる

歩行器の段階的使用って

- 筋力やバランスレベルの低い順番で使用機種
- ① 馬蹄形：最も安定した形状と体幹保持体制で使用可能。細かい段差でも乗り越え辛いため、移動に難あり
 - ② 四脚タイプ(交互式)：必ず体幹保持できる状態で少しずつ移動
 - ③ 四脚タイプ(固定式)：秒単位の短時間であれば立位保持可能。
 - ④ 四脚タイプ(キャスタ付)：つかまれば、制動可能。
 - ⑤ 屋外使用タイプ：長距離の歩行を主たる目的として使用。
- 一般的には、この五段階で徐々に筋力やバランス保持レベルが上がっていくと視られます。

考え方としては、
 ・ 立位やバランス保持能力が低ければ、持ち手位置が腰の高さにある四脚タイプ(キャスタ付)の使用は転倒を招く可能性が高い。